

すべての原発いまずくなくそう！全国会議

第3号

2013.7.11発行

カンパ50円

発行：NAZEN 事務局
東京都杉並区天沼 2-3-7-2A
info@nazen.info

NAZEN 通信



原発・放射能を焦点に参院選をトコトン闘おう！ 動労水戸に続け！職場から闘い8月広島・長崎へ

みなさん。原子力規制委員会は6月19日、再稼働ありきの新基準を「正式決定」しました。7月8日の「施行」とともに、12基の原発の再稼働申請（四国電力の伊方3号機、北海道電力の泊1～3号機、関西電力の高浜3、4号機と大飯3、4号機、九州電力の玄海3、4号機と川内1、2号機）、福島原発事故の犯罪者たる東京電力も7月2日、柏崎刈羽原発の6、7号機の再稼働を申請することを決めた。

他方で規制委は6月24日、稼働中の大飯原発3、4号機について新基準に「適合」と判断、「直ちに安全上重大な問題は生じない」と9月までの稼働継続を了承しました。施行前から再稼働ありきのデータメ基準。そしてまたもや「直ちに」の言葉。事故直後に繰り返された「直ちに人体への影響はない」（枝野経済産業大臣・当時）の言葉の2年先は、「子どもの甲状腺がん12人、疑い15人」（6月5日福島県発表）の現実ではないですか！再稼働を許さず、全原発廃炉へ！今こそ再びのあじさい革命を、100万規模で巻き起こしましょう！

山本太郎さんを応援します！

まず7月参院選でそれを実現しましょう！

昨年衆院選で山本太郎氏が立候補した杉並で

は、有権者46万人のうち7万人が山本氏への投票として反原発の意思を示しました。原発と放射能への不安と怒りはますます高まっています。山本太郎氏（東京選挙区）を先頭とした反原発選挙で、再稼働をもくろむ安倍政権や財界に目にもみせてやろう。

今回の参院選は、大きく時代が動こうとする中で行われようとしています。マスコミで騒がれているような「自民大勝と反原発運動の危機」どころか、日本の原子力政策と、それを推進する資本主義社会そのものの崩壊、さらには労働者民衆の怒りが噴き出す中での選挙です。

6月都議選では、民主党に昨年の衆院選に続いてのだめ押しの断が下されました。今政権をとっている自民党も55年間続いた体制に、09年、労働者民衆から断を下された政党です。彼らは、終身雇用や年功序列賃金など、資本主義が労働者を一定食わせられる条件のもとで権力をとってきた党でしかありません。74～75年恐慌と資本主義の危機、新自由主義政策への転換という中で、非正規に突き落とされた私たち労働者の「未組織」の怒りを始め、労働者民衆が毎年政権を倒していく事態となっています。橋下・維新の会も崩壊を始めています。（2ページにつづく）

- | | |
|--|----------|
| ◆事務局からの訴え 参院選を闘う意味と方針について | … 1～2ページ |
| ◆特集 8・6ヒロシマー8・9ナガサキへ
下田禮子さん（広島）、城臺美彌子さん（長崎）、若者（広島）からの訴え | … 3～5ページ |
| ◆ドイツ渡航の報告 | … 6～7ページ |
| ◆ドイツカンパの収支 年会費のお願い | … 8ページ |

その根底にあるのは、3・11 で明らかになった「いのちの危機」、戦争、改憲に対する怒りであり、ヒロシマ・ナガサキ、オキナフ、ビキニの体験者、被爆者として語り継がれてきた私たち民衆の歴史的な立場です。

アベノミクスは、「金融緩和」の名のもとに、紙切れになるほど札を刷り、ガソリンなどの輸入品の高騰や私たちの食べ物への投機までを生み出し、株価の乱高下とともに破綻を開始しています。行き着く先は、大恐慌と争闘戦の激化、国家間対立一戦争です。改憲・戦争と命の危機は、資本主義の危機の煮詰まりであり、私たちの怒りと行動は時代を動かす力を持った歴史的なものです。

私たち労働者民衆の党を

自民党が政権を握ってきた要因は、こうした私たちの怒りを体現する、労働者民衆自身の党の未成熟にあります。「投票率の低下」は労働者民衆の政治的無関心ではなく、消去法的な選挙や選挙制度そのものへの怒りであり、本物の、怒りを行動へと訴える労働者民衆の党が求められているのです。そして、こうした制約があるとしても、参院選はあらゆる形で私たち労働者民衆の怒りがたたきつけられる場となるでしょう。

同時に、労働者民衆が自分たち自身の党をつくっていく課題は、参院選を闘いきる中でより明らかになるとともに、ムードだけでできるようなものでもありません。自分たちの足元から、職場や地域から、具体的な運動を通して必死に信頼関係と団結をつくり、進めていく以外にあり得ません。私たちの再稼働をめぐる正念場、参院選をも舞台にしたあじさい革命は、全力で選挙を闘うとともに、足元からしっかりと闘いと組織をつくる闘いです。

労働組合の力

その中でも大きな歴史的役割をもっているのは、闘う労働組合をつくる闘いです。動労水戸の被曝労働拒否の何波ものストライキは、原発をなくし、この社会を変革していくために、本物の闘う労働組合をつくることの必要性、労働者が団結したときの力の大きさを教えてくれています。

そこにあるのは、労働者の命を守るために非妥協で闘う労働組合の姿です。放射能は、子どもや青年の体から破壊していく。未来を大きく描けるがゆえにもっと

も怒りをもつ青年労働者に対して、組合加入と被曝労働拒否のストライキへの合流を訴え、どんなに少数でも原則的に闘う。命を守るために闘う労働組合が必ず多数を獲得し、資本を圧倒して職場を止めるほどの力を持つという確信。

組合に集まる労働者は、けっして聖人ではなく、普通の労働者です。しかし「どんな労働者でも実際に社会を動かしていることに変わりはない」「労働者は団結すれば社会を変える力を等しく持っている」、こうした信念と誇りがあります。

連合にまでいきついた既成の労働組合の運動は、高度経済成長の賃上げの裏では合理化を認めてきました。職場では仲間が首を切られ、残った仲間には労働が強化され、安全が切り捨てられる。これを認める代わりに金をくれと運動をしてきたのです。命と金をてんびんに掛けられる組合が、原発に反対できるはずもありません。そしてあたかも労働組合は金のためにしか闘わないかのような姿がまかり通ってきました。

しかし、労働者の首や安全は金では売れない。賃金がたとえ上がるうとも搾取される悔しさには代えられない。資本に搾取される労働者の立場に立ち、労働者の命を守るために闘い抜く原則的な労働運動を続けてきたのが、動労千葉や動労水戸をはじめとした労働組合です。

6月に福島市で行われた「東北六魂祭」は、「東北絆固く」などとマスコミが大々的に報じる「復興キャンペーン」でした。「特別協力」のJRが25万人を動員し被曝させ、「経済効果37億円」という巨額の金を大手広告会社が牛耳り、無用な被曝労働の上にゼネコンがボロもうけする。こうやって繰り返される原子力ムラの資本の構造こそが、私たちが倒すべき対象であり、どんなに大きな力に見えても、これを内側から覆す力を持っている労働者が立ち上がってこそ、それは可能になっていくのです。

ドイツでも「環境運動は市民、労働運動は労働者」と分けられた課題に向き合い、「労働者と民衆が結合したときに大きな力を発揮する」と語られたように、これを目指して闘うのがNAZENです。全国から福島に伝える力ある運動を構築していくために、歴史的な参院選をトコトン闘い、8月広島・長崎で会いましょう。(織田)

世界を滅ぼす気か 安倍を許さない



下田^{れいこ}禮子さん（8・6ヒロシマ大行動共同代表、NAZEN呼びかけ人）

8月6日、被爆した母は近所の建物疎開動員156人の内、一人だけ家にたどり着くことができた。三日三晩の看護のいかなく、うわ言を言いながら息絶えた。義母も「黒い雨」が降ってきても、行くところもなくトタン板をかけてしのぎ、「順番を待ってむすびをもらうのが情けなかった」と言っていた。当時は原爆のことはよくわからないし、みな“ブラブラ”しておかしな病気がはやるぐらいに思っていた。それが放射能の影響だと、だんだんわかってきたけど。放射能が、今みたいに何ミッシェベルトとか言われることもなかった。金持ちは栄養のある食べ物を手に入れ生き延びたけど、貧しい人は死んでいった。

それからは、生きること自体が闘い。でも、叔母の小西ノブ子（「反戦被爆者の会」創設者）がずっと一緒だった。広島電鉄に入って婦人部の部長をやり、1950年にレッドパージで解雇。3・8国際婦人デーもやっていて、最近若い人から「下田さんは戦後直後から婦人デーをやってたんだ」って驚かれる。

私にとっての転機は97年の日米新安保ガイドライン締結、99年の周辺事態法成立。被爆者の直感、経験で、これは「国家総動員法」だと分かった。それで百万人署名を集めたり、県内キャラバンにも行きました。1999年の8月6日に「8・6ヒロシマ大行動」を始め、これ以降毎年続けるわけです。

大事なことは生きること 原発は絶対にいらぬ

一昨年の3・11は、血の引くような思い。「ああ、やったか」。小西ノブ子が『炎の巡礼者』で、“ほおって置いたらまた繰り返される”と書いている。それだけの被爆者の怒りがありながら、当時（50年代前後）は「原子力の平和利用」というのにだまされて、あのころの闘争が弱かったんじゃないかね。「絶対安全」と言いながら、この狭い国に50何基もの原発を造られて。

3・11二周年集会に参加して、福島

の人はようがんばってるよね。生活は大変だと思うけど。広島に比べても、福島は今も放射能が流れっぱなし。ほんと命がけよね。それだけの思いがあった集会。私もデモの先頭に立たせてもらい（上写真）、毎日新聞が「被爆者が福島を歩く」という記事にしてくれた。

機械じゃなくても、大八車を押しても、それでも原発はいらんよ。みんなが幸せに食べていけばいいじゃない。文化だとかヘッタクレを言っても、大事なことは生きること。

安倍に改憲をやらせない ヒロシマから世界に発信

今年8月6日、私も歩かないといけないんで、体調を整えてます。安倍を粉碎せんと。自分の国の原発も収束できんのに、資本家の味方になって、よその国に売り出すなんてのはもってのほか。「日本がこうなってるから、あなた達も気をつけなさい」と言うのがほんとでしょ。止めないといけない人が、勧めることはないじゃないか。世界を滅ぼす気か！と言いたい。原発大事故が起きると、魚も鳥も食べられず、食物の連鎖で人間が生きていけなくなる。

「世界のヒロシマ」が発信することを、聞いてくれないといけない。原発を売ろうとしているトルコとかブラジルとかで、労働者が立ち上がってる。政府は命なんかどうでもいいと思ってるから、原発も造るし、労働者もいじめる。今年は、そういう国際的なつながりを持った8・6にしたい。

安倍政権は、憲法96条を変えて、いつでも憲法を変えて戦争をやろうとしている。絶対負けられません。山本太郎さんの立候補、ありがたい。東京の知人に連絡したら、「みんなに紹介する」と言ってくれている。安倍政権打倒を8・6でやりましょう。今年の8・6ヒロシマは、世界大会になるようがんばりましょう。

許すな憲法改悪！ 原発再稼動を背負って68回目の夏が来る！

じょうだい みやこ
城臺 美彌子さん (NAZENナガサキ・被爆者)

1945年8月9日、その日まで長崎市民およそ25万人は生きていた。一瞬の閃光と共に3000度の熱線、秒速280メートルの爆風、高線量の放射線を浴び、年末までに8万人が死に絶えた。病院機能が失われ、薬品投与も行われず。残り17万人が原爆症と戦いながら、家族を失った苦しみと悲しみの中で戦後を生きぬいてきた。日常生活が安定したのは10年も過ぎてから。

終戦の翌年国民学校一年生になった私たちには、かばんも教科書もノート・鉛筆も無かった。履いて行く運動靴さえなかったが、空襲の無い空の下で学校に行くことができるだけで嬉しかった。生き延びていた者たちだけが味わった喜び。

その翌年の1947年、日本国憲法が発布された。再び決して、日本の指導者が間違いを犯さぬように憲法は制定された。第一条象徴天皇。第九条戦争の放棄、「みんな、よく聴け。新しい憲法だよ。もう空襲は無いよ。みんな安心して眠れるよ」と学校で聴いたのが忘れられない。戦争を体験してきた者にとっては、自民党改憲論には、あいた口がふさがらない。それに同調している他政党の愚かさは、日本の国の歴史教育がおざなりにされてきた所以だ。改憲賛成と言っている人たちは戦争を知らぬ、軍隊を知らぬ。今回の選挙によって、安易に改憲論者たちが勝利したとしたら、自由と真実の無い命令と服従のおぞましい軍隊ができ、核兵器を作り、先制攻撃を仕掛け、原発は再稼動して、放射能を撒き散らす。やがて日本は廃墟と化す。目先の経済、命より金しか見えない連中がニヤニヤ笑うのを決して許してはならない。頑として立ち向かおう。

「被爆体験者」原告団長 小川さんの遺志をつぎ

あの日浴びた内部被曝で、今年また一人被爆者が命を落とした。無念の叫びを遺言として。「被爆体験者」の原告団長小川博文さんの死だ(2013年5月23日)。「同じ原爆の被害にあっているのに国は何故『被爆者』と『被爆体験者』に分け隔

てるのか」。その不当性を国や社会に訴え続けた。2007年に提訴してから、原告団のうちすでに34名の命が奪われた。「長いこと手帳ももたずに暮らしたが、放射能障害は年月を経ても、一度傷ついた遺伝子は突然に牙をむく」と叫んだ。

福島でも似たようなことが起こり始めているのではないか。これから向かう明日は安心できるものではない。廃炉作業の福島では、まだ低線量被曝、不完全除染、汚染水漏洩。それに致命的な使用済み核燃料の処理さえできていないのに、国内では原発再稼動、海外にはNPT条約に参加もしていないインドに原発輸出を持ちかけたり、地震国トルコと輸出協定を結んだりする安倍総理。日本国民をもう一度奈落の底に引き込もうとするのをヒロシマ・ナガサキは許してはならない。

使用済み核燃料の始末もできていない原発を動かして10年後、50年後100年後、千年先の人たちに安全を残すことはできない。今フクシマでは子どもたちに甲状腺がんが発症しているという。NAZENナガサキは「微力だが無力ではない」というナガサキの高校生から学んだ言葉で、高島保養を提案し、8・9を迎えようとしている。共に闘いましょう。乞う！ 結集！ ナガサキ！



フクシマの怒りとともに 被ばく68周年 8・9長崎集会

フクシマから 椎名千恵子さん
ナガサキの被ばく者から 城臺 美彌子さん
被ばく労働強制を阻止する 動労水戸・辻川 慎一さん

8月9日(金) 午後1時30分より

長崎県勤労福祉会館2階講堂
(電停・長崎市公会堂前下車すぐ)

主催 すべての原発いまずぐなくそう！ 全国会議ナガサキ
協賛 8.6 広島-8.9 長崎反戦反核闘争全国統一実行委員会
連絡先 長崎市上小島 1-12-36 橋里方
電話/FAX 095-800-1107
メール nazen_nagasaki@yahoo.co.jp

反原発から革命を巻き起こす NAZENヒロシマ スタッフ 清水 康子

私は、3・11を機に反原発活動をスタートさせました。当初は「原発」の存在すら知らなかったが、健康被害を招くであろう原発を廃炉にし自然エネルギーへシフトさせることが必要であると確信した。もう、黙ってられない！！この時から、健康や生命^{いのち}を害するものを否定する私自身が反原発活動をスタートさせることとなりました。

2011年8月5日には、被爆地広島で「NAZEN結成集会」が開催され新たな反原発の歴史がスタートした。2012年2月11日には、ついに「NAZENヒロシマ結成集会」が開催され集会とデモが行われました。私は集会でNAZENヒロシマ結成宣言文の読み上げを任せられ「原発と原爆は同じもの」という考えに基づき必死にマイクを握り最後まで読み上げをやりきりました。デモでは、マイクを持って力強くシュプレヒコールを行い、飛び入りでデモに参加する人々もいたり街行



く人々に反原発をアピールした。2012年3月11日、原発事故から一年となるこの日「3・11原発いらない！ 福島県民大集会」にも参加した。私自身の反原発活動の原点となる福島で、同じ思いの人た

ちと闘うことができた！

そして、2012年5月5日には全原発停止となり「5・5全原発停止鯉のぼりデモ」が行われ反原発の大きな鯉のぼりが空高く泳いだ。それは、まるで反原発で闘う人々の全原発停止による嬉しい気持ちを高く表現しているかのようでもあった。デモ参加者からは、「やったぞー」などとシュプレヒコールが空高く響いた。

健康被害を招き人々の絆をバラバラにした福島第一原発事故を許してはならない。ふくしま共同診療所も放射能汚染に苦しむ人々の救いの場となってほしいと思います。健康で生命を活性化する生き方、それは人類にとって最も大切なことであり原点だと思います。そのためにも、「原発はいらない」と声を上げることが欠かせない。「生命より金」を「金より生命」にシフトさせること、巨大な資本主義の固まり、資本主義の常識のような原発をなくすこと、それは「革命」である。最後まで諦めないこと、それは自分の心に負けないことである。私たちひとりひとりに無限の可能性があり、輝かしい時を謳歌することができるのです。

今年も、8・6が近づいてきました。全国の皆さん是非8・6ヒロシマ大行動にご参加下さい。福島と連帯し、みんなで団結して最後まで闘いましょう！！

全原発廃炉・核廃絶 8・6ヒロシマ世界大会へ

●8月5日(月)
**再稼働阻止！全原発廃炉！
ヒロシマ世界大会**

15:00～18:00 アステールプラザ中ホール
(広島市中区加古町4-17)
アメリカから/デビッド・ロビックスさん(歌とメッセージ)
ドイツから ほか
被爆者・被爆二世、福島からの訴え
各地の反原発運動(青森、伊方など)
被曝労働阻止をたたかう労働組合(国鉄水戸動力車労働組合ほか)
主催/8・6ヒロシマ大行動実行委員会
/すべての原発いますぐなくそう！全国会議 NAZEN

18:30～ 保養の交流会(アステールプラザ大会議室)

統一主催/被爆68周年8・6ヒロシマ大行動実行委員会

連絡先 〒730-0016 広島市中区鞆町14-3-705 電話・FAX 082-221-7631

賛同金(1口1000円) 郵便振替 01360-1-62222 口座名 8・6ヒロシマ大行動

●8月6日(火)
ヒロシマ・アピール集会

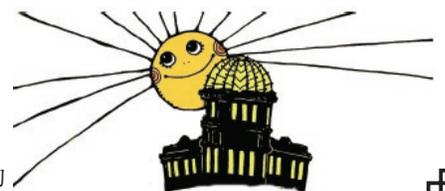
7:00～原爆ドーム前

8時15分黙とう後、首相式典出席抗議のデモ行進・中国電力申入

8・6ヒロシマ大行動大集会

12:30～14:00 広島県立総合体育館小アリーナ(広島市中区基町)
14:30 市内デモ行進(16:00 平和資料館前解散)

■2日間共通参加券 1500円/被爆者・障害者・学生 1000円
1日のみ参加(5日、6日とも) 1000円
/被爆者・障害者・学生 500円
高校生以下無料



心にしみる交流から見えた NAZENの位置と課題

事務局 織田陽介

6月6～19日にかけて、ふくしま共同診療所運営委員の椎名千恵子さん、通訳として動労千葉国際連帯委員会の真辺信男さんとともに、ドイツに行ってきました(☆詳細はブログ参照を)。ドイツに行って逆に自分たちNAZENの位置や課題が見え、考えさせられるドイツ渡航でした。

★7～11日 ゴアレーベン(ヴェントラント)

6日のベルリン着とラーベンさんとの再会から、次の日すぐにゴアレーベンのあるヴェントラントへ。核廃棄物中間処分場を建設されながらも、核廃棄物搬入に対する闘いを継続し、最終処分場反対運動を続ける現場への訪問でした。到着と同時に私たちを囲む集会、最終処分場予定地への抗議デモへの参加、事務所への訪問と初代委員長のマリアンネさんとの交流、ゴアレーベンの闘いのレクチャー、風力発電や有機農法の見学、そして何より現地で「ノミカイ」と日本語で表現される楽しい交流。豊かな自然に囲まれ、よく食べ、よく学び、討論し、充実した訪問でした。

何よりの印象は、心かよう感動と交流でした。歴史的な大雨と洪水の中でも大歓迎してくれたみ



なさんの姿。「紫陽花革命」の話聞いて紫陽花を探してプレゼントしてくれる心意気(今もこの紫陽花は宿泊した仲間の家に植わっています)。通じる。闘いが、言葉が、心が通じる。この感動です。お互いが、原則を守って闘ってきたからこそ、その苦闘も分かり合える。原則的に闘うことの普遍性、すばらしさを肌身で実感しました。

診療所への2800ユーロのキャンペーンの新聞に☆



ここで学んだのは、自然との共生と勇気ある挑戦でした。風力発電やバイオマスなど、原発に頼らないための努力に、たくさんの矛盾を抱えながらも挑戦しています。核武装と金儲けの資本主義社会そのものの変革なくして解決のない問題であることは間違いない。しかし、その実現過程を極めて具体的に進めていこうとするその勇気。住民が1000人規模で反対同盟に組織されて団結し、30年以上に渡って闘い続ける驚異的な運動。日本の私たちが学ぶべきことがたくさんありました。



国会前抗議にも参加。執行部が先頭で着ぐるみを着、「見ザル、言わザル、聞かザル」で批判

★12～13日 デュッセルドルフ

昨年東電に「ブラックプラネット賞」を渡して批判したエテコンに再開。フリードリヒ・エンゲルスの生家訪問などドイツの歴史を学び、ドイツでもっとも日本人の多いデュッセルドルフでの集会。NAZENのTシャツを着て集会に行ったりするエテコンのみなさんの思い入れに触れて感動。



★14～18日 ベルリン

ベルリンでは、ドイツ機関士労組で民営化反対で闘う労働者との交流と職場見学、クルド民族の抵抗運動との交流、IPPNW(核戦争防止医師会議)のドイツ支部との交流、ベルリンの労働運動を学ぶフィールドワークにも参加。打って変わって動労水戸のストライキへの感動がガンガン返ってくるような交流でした。

クルド民族の抵抗運動の女性からプレゼントをもらったときには目頭が熱くなりました。今年初めにフランスでネオナチのような連中が女性のリーダーを虐殺、フランス当局は犯人を割り出しているにもかかわらず、ネオナチとグルになって隠し通している。ドイツにもこの怒りは波及し、道に大きなテントを張って抗議集会



をしていました。PKK(クルド労働者党)という運動の中心の組織の旗を出すと逮捕。デモでマスクは禁止。目の前で私服警察に身分証を出させられている若い活動家。ドイツでも命がけの闘いが闘われていました。クルド民族の会館を集会に使わせてくれたきっかけは、実は日本の11月労働者集会でした。ドイツで弾圧される旗を出してデモをしている私たちの写真を見て、快く貸してくれたのでした。やってきたことの大きさを感ずることができました。



ドイツ機関士たちとの交流は多くを学べるものでした。「理論で正しいことを言っても労働者がそうだと思わなければ意味がない」「今必要なのは、団結を語るのではなく、団結を実践することだ」。動労千葉と同じ言葉が出てくる。機関士たちは07年にストライキを敢行、多くの労働者がこういう形で目覚めたと言います。世界で巻き起こっている闘いで、どれだけの労働運動のリーダーが生まれているかと思うと鳥肌が立ちました。

集会では、「ドイツでは、環境運動は市民、労働運動は労働者と分かれてしまっているけど、NAZENは労働組合と一緒に闘っているね」と発言があり、はっとさせられました。最後の日の集会、機関士の労働者たちと力をあわせて勝ちとり、現地での団結も最高潮に。打ち上げでビールを飲みながら話しているときにも「市民運動と労働運動が結合したときにすごい力を発揮するはずだ」という言葉。日本の反原発運動の課題、僕らの位置に気づかされたドイツでした。

ドイツ渡航カンパ 収支報告



今回のNAZENドイツ渡航に、本当にたくさんのカンパを寄せていただきました。5月の沖縄集会や6月9日の国鉄闘争全国運動の集会でのカンパや郵便振替口座へのカンパ、ドイツ現地でもカンパをいただき、幸いにもすべての費用をカンパで賄うことができました。心のこもったご支援

に事務局一同心から感謝しています。以下収支報告をさせていただきます。

本当にありがとうございます。



●ドイツ渡航費用

(織田・椎名・動労千葉国際連帯委員会の通訳)

交通費総額	439,080
ドイツへのお土産	5,200
合計	444,280

●カンパ

国内カンパ総額	292,517
ドイツ現地でのカンパから	151,763
合計	444,280

保養基金にご協力も!

NAZEN東京は、8月21日～24日の3泊4日の計画で、福島の子どもと親御さんの保養に取り組みます。「子どもを被曝から守りたい」「フクシマと共にありたい」との思いを、みなさんと一緒になって行動に移したいと考えております。フクシマの怒りを共有し、共同診療所建設とともに保養・避難をNAZEN運動の柱にしていきたいと思います。とくに5～6月から政府が再除染の拒否という形で従来のペテン的除染も放棄し、放射能汚染を野ざらしにして被曝させる方針に転換しました。保養・避難がより求められる時だと感じています。

今夏の保養場所は山梨県南都留郡忍野村忍草おしのむらしほくさの民宿です。有名な忍野八海おしのはっかいの直近。心身ともにリフレッシュでき、保養に最適の場所です。

首都圏と全国のみなさんのご協力をお願いします。今回は小規模な保養ですが、宿泊費と交通費で50万円必要です。カンパは、NAZEN口座に「保養基金」と書いて送金して下さい。ぜひともスタッフになって下さい。(伊谷)

◆◆◆ 郵便局 振替口座 ◆◆◆

口座番号 00120-8-763817

加入者名 すべての原発いますぐなくそう!全国会議

銀行口座からの振込の場合 ○一九店 0763817

※振り込みの際は、「年会費〇人、〇団体分」

「保養基金カンパ」などお書き下さい

◆◆◆ 診療所基金はこちら ◆◆◆

福島診療所建設委員会の口座へ

★郵便振込口座 02200-8-126405

福島診療所建設基金

★銀行口座

福島銀行 本店(110)普通 1252841

福島診療所建設基金 代表 渡辺馨

★PayPalでのお振り込み

アカウント

clinicfukushima@yahoo.jp

渡辺馨(福島診療所建設委員会)



NAZENの活動をぜひ年会費で支えて下さい。毎月の通信を発送致します。年会費は、個人一口2000円、団体一口3000円です。個人の2000円は、半額ずつ各地のNAZENと全国財政として使われることになります。会計年度は1月1日～12月31日です。

全国でつながり、原発と核のない社会をつくるため、ぜひ納入をお願いします。

